

糸島地域における井戸の時期的変遷と画期

平尾和久（糸島市教育委員会文化課）

1. はじめに

近年、糸島市では九州大学の移転など様々な要因が組み合わさり、発掘調査の件数が増加傾向にある。また、九州大学伊都キャンパス建設に伴う発掘調査も終了し、総括報告書も刊行され、調査成果がまとめられている（大塚編2019）。これらの調査で増加している遺構のひとつが井戸である。糸島市では2020年刊行までの報告書に掲載された井戸が98基あるが、その約半数がここ10年以内に報告されたものである。また、長垂山以西の福岡市西区に所在する井戸は25基であるが、九州大学伊都キャンパス内で12基確認されており、これらの成果から糸島地域で井戸のあり方を検討すべき時期に達したと考えられる。これまでも、糸島市内で井戸の形態の地域差があると指摘されていたが（注1）、井戸の確認事例も増え、ようやく通史的な変遷を検討できる段階に到達したといえる。

2. 研究略史

井戸の研究は日色四郎氏や山本博氏の研究が初期段階に位置付けられる（日色1967・山本1970）。両者の研究では、型式分類や年代の検討とともに井戸の各部名称を整理する必要性等が説かれている。1982年には宇野隆夫氏により井戸各部の分類が行われ、大まかな変遷が示された（宇野1982）。

その後、井戸の研究は、地域・時期別に行われるようになる。北部九州では弥生時代から中世まで研究が見られるが、時期ごとに傾向を把握するものが多い（篠原2000、久住・久住2008、横田1977など）。

井戸そのものではないが、井戸で行われた祭祀に関する研究も多い（駒見1992、穂積2013）。なお、井戸枠として用いられる結桶（筒）に関する研究も進んでおり、現段階では博多遺跡群で確認された11世紀後半の結桶が最も古いもので、13世紀までは主に九州内で展開する（鈴木2000）。また、2003年には鐘方正樹氏により『井戸の考古学』が刊行され、現段階における井

戸の研究状況を確認することができる。なお、埋蔵文化財研究集会では『井戸再考』（2008年）、『続・井戸再考』（2013年）として弥生時代～古代を対象とした検討が行われた。

以上のように研究史を概観すると、宇野氏や鐘方氏の研究により列島規模の通史的な井戸構造の変遷を辿ることができるが、地域性の抽出は紙幅の関係もあり難しい。また、北部九州でいえば久住氏などにより時期ごとの井戸の分布のあり方や構造も検討されているが、地域内での通史的な把握は行われていない。たとえば、福岡県内でも博多や太宰府などと糸島とでは井戸の変遷や画期が異なる可能性が高い。

そこで、本稿では基礎資料として糸島地域の井戸を集成し、大まかな時期変遷を提示し、画期を見出したい。なお、糸島地域は糸島市と福岡市西区の長垂山以西の範囲として以下の検討をすすめる。

3. 糸島地域における井戸の変遷

(1) 弥生時代

研究史でもふれたように、井戸は弥生時代から確認されるが、現段階では北九州市松本遺跡1号井戸などが最古段階に位置付けられる（佐藤2008）。また、比恵・那珂遺跡では400基以上の井戸が確認されているが（久住・久住2008）、糸島地域では数基にとどまる。

石崎矢風遺跡は糸島市の西部に位置する石崎丘陵の台地東裾から谷部にかかる湧水の激しい地点に所在する。標高は8.4mである。井戸枠は丸太割り抜き材で、平面78cm×60cm、高さ40cmを測る。井戸枠の上端部の南北方向にはU字形の割り込みを入れて排水口としていたようである（第2図4）。また、底には50cm×36cm、厚さ6cmの板材をひく。底からは澄んだ水が出ており、水を採取していることは認められるが、井戸の深さが40cm程度となり、井戸というよりも水汲み場に近いものかもしれない。なお、井戸内及び周辺埋土から弥生時代中期前半の土器と桃核10点が出土している（古川編2010）。

今宿五郎江遺跡は今宿平野東部の扇状地に立地する環濠集落で、環濠は弥生時代中期末頃に掘削され後期後半まで継続する。2次調査1号井戸は断面形態等から貯蔵穴の可能性が考えられたが、湧水点が高く、水量も豊富であることから井戸と判断されている（二宮編1991）。平面2.0m×1.5mの楕円形を呈し、深さは1.2mであるが、0.5～0.7mの遺構面削平があり、本来は2m程度の深さがあったとされる。その場合は二段掘になるか。なお、9次調査421号土坑と422号土坑は平面長方形で（第2図2・3）、深さが1.0m前後あり、前者からは米と思われる炭化物が密集して出土しているが（杉山・阿部編2006）、両者を井戸とする見解もある（久住・久住2008）。

今宿大塚遺跡11次調査では2195号溝下部の掘り下げ中に井戸が確認されている（杉山編2013）。板材を井桁状に組み合わせた井戸枠が一段分確認され、その中央に弥生時代後期前半の甕を正位に据えている（第2図1）。集水桝として機能した可能性がある（注2）。弥生時代の井桁組井戸の事例は少ないが、比恵遺跡6次調査などで確認されており、半島からの影響が想定されている（高野2008）。

潤古屋敷遺跡は糸島市の中央部の糸島水道に面する箇所位置する遺跡で、標高は4m程度である。3号井戸は調査区南端で確認されており、約1/2が調査区外に延びるため、平断面図が掲載されていないが、平面が南北方向に1～2m、東西方向に2～3mを測る不整形円形を呈すると想定され、深さが約1mで最下層に砂礫が確認された（瓜生編2013）。井戸からは弥生時代中期前半～中頃の甕と高坏が出土している。しかし、3号井戸は平面の1/6程度のみ掘り下げであり、調査区内での井戸はすべて室町期以降に位置付けられるため、弥生中期の井戸とは断定はできず、可能性の存在に留めておく。

その他、上鐘子遺跡でも4基の井戸が確認されている（久住・久住2008）。

（2）古墳時代

古墳時代になると井戸の事例が若干増加する。潤古屋敷遺跡に東接する潤地頭給遺跡Ⅱ区の東側谷部付近で確認された井戸は、平面4.0m×3.3mの不整形円形を呈する。その中央に準構造船の部材

を転用した井戸枠が土圧で押しつぶされたかたちで確認された（第2図5）。部材は6枚からなり、本来は円形に組まれていたと判断される。深さは2mほどで井戸の底では礫が確認された（江野編2005）。井戸枠内からは古墳時代初頭の土師器が出土している。このような船材転用の井戸は市田齊当坊遺跡（京都府久御山町）などでみられる（高野編2008）。船材という丸みを帯びて長い板材が井戸枠として適合すると判断されたのだろう。また、おなじ潤地頭給遺跡のⅣ区からは素掘の井戸も確認されている（江崎編2007）。標高4.5m付近で確認されており、平面は1.05m×0.9mの略円形を呈し、深さは70cm程度で、検出面から40cm下の箇所には段が残る。井戸内からは5世紀前半から中頃の土師器が出土している（第2図7）。

潤地区と雷山川を挟んで東接する志登遺跡群5次調査1号井戸は、標高5.5mほどで確認され、平面は東西0.98m×南北0.95mの方形プランを有する（第2図6）。素掘の井戸で井筒の平面は不整形円形を呈し、深さは3.1mほどを測り、「井戸壁は強固で残存状況は良好」とであると報告されている（岡部編1985）。井戸の底から30cmほどの箇所土師器の甕が出土しており、埋没時期は古墳時代前期に位置付けられる。

井牟田遺跡は深江湾に面するラグーン状の地点に形成されており、弥生時代には楽浪系土器や中国式銅剣も出土し、伊都国の港湾的性格が考えられる遺跡である。井戸はⅠ区の標高3.2mの地点で確認された（古川編1994）。掘方は明確に確認できていないが平面が72cm×70cmの隅丸方形を呈する（第2図8）。井戸枠として直径44cmの丸太を割り貫いたものを用い、土師器甕の胴下半部を底敷としている。井戸の深さは検出面から40cm程度である。これは前述した石崎矢風遺跡の井戸と類似しており、水汲み場として機能した可能性もある。時期は古墳時代前期である。このほか、元岡・桑原遺跡22次調査1号井戸も土師器の甕が出土しており、古墳時代に設けられた可能性があるが、調査区が狭小であったため、平面確認にとどまり詳細は不明である（久住編2006）。

（3）飛鳥～平安時代

飛鳥時代～平安時代にかけて井戸の確認事例は増加する。古い事例としては元岡・桑原遺跡群18次調査で確認された井戸がある（吉留編2013）。18次調査地点は遺跡の北東部に位置する。立地的には桑原（大原）川の南岸にある北西にむかって開口する狭い谷地形で、外部から遮断された隠蔽性の強い箇所である。6世紀末～7世紀初頭に大規模な造成を行い倉庫と考えられる総柱建物が整然と設置され、7世紀中葉頃に新たな土地区画が行われ居住域も形成されている。7世紀末には製鉄関連遺構が設けられる。井戸は南北2群に分かれる。286号井戸は標高21m付近の流路SX100の谷頭に部分該当する箇所に設けられた石組の井戸で、掘方は南北2.3m、東西1.95m、深さ0.5mである（第2図9）。石組は「南側のみ高さ50cmほどの板石を立て、それを支えるように東西に方面は角礫を積み上げている。最下段は高さ20～30cmの比較的大ぶりの礫が用いられる。それより上部は板状の礫を小口積み」と報告されている。遺物はほとんど出土していないが、人為的造成が加えられた流路SX100から出土した遺物と井戸の立地から7世紀代に位置付けたい。なお、他の石組井戸も出土遺物が少ないが、報告書で中世に築かれたとされる421号井戸を除いてほぼ同時期と考えてよいだろう。なお、このような井戸は飛鳥京城でのみ確認されるもので、元岡・桑原遺跡群にヤマト政権中枢から派遣された軍事拠点の存在も想定されている（龍・久住・菅波・山崎2013）。石組井戸そのものは朝鮮半島で確認されており、その影響下による成立も視野に入れる必要がある（鐘方2013）。

同じ元岡・桑原遺跡群53次調査5号井戸は平面1.8m×2.0mの不整円形、断面は楕円状を呈し、深さは約1.0mである（大塚編2017）。井戸枠は西・北・東の三方に板材を立て、横棧を渡すが、掘方にそって上方に広がる形で確認された。板材は幅9～11cm、長さ60～90cm、厚さ0.4～1.3cmである。井戸からは小片であるが黒色土器B類や須恵器、土師器等が出土しており、9世紀～10世紀初頭とされる。

元岡・桑原遺跡に南接する泊リュウサキ遺跡では2.16m×2.0m平面円形プランの井戸が確認されている（平尾・田中編2009）。井戸は二段掘で、テラス部分に横板を井桁状したものが2段分

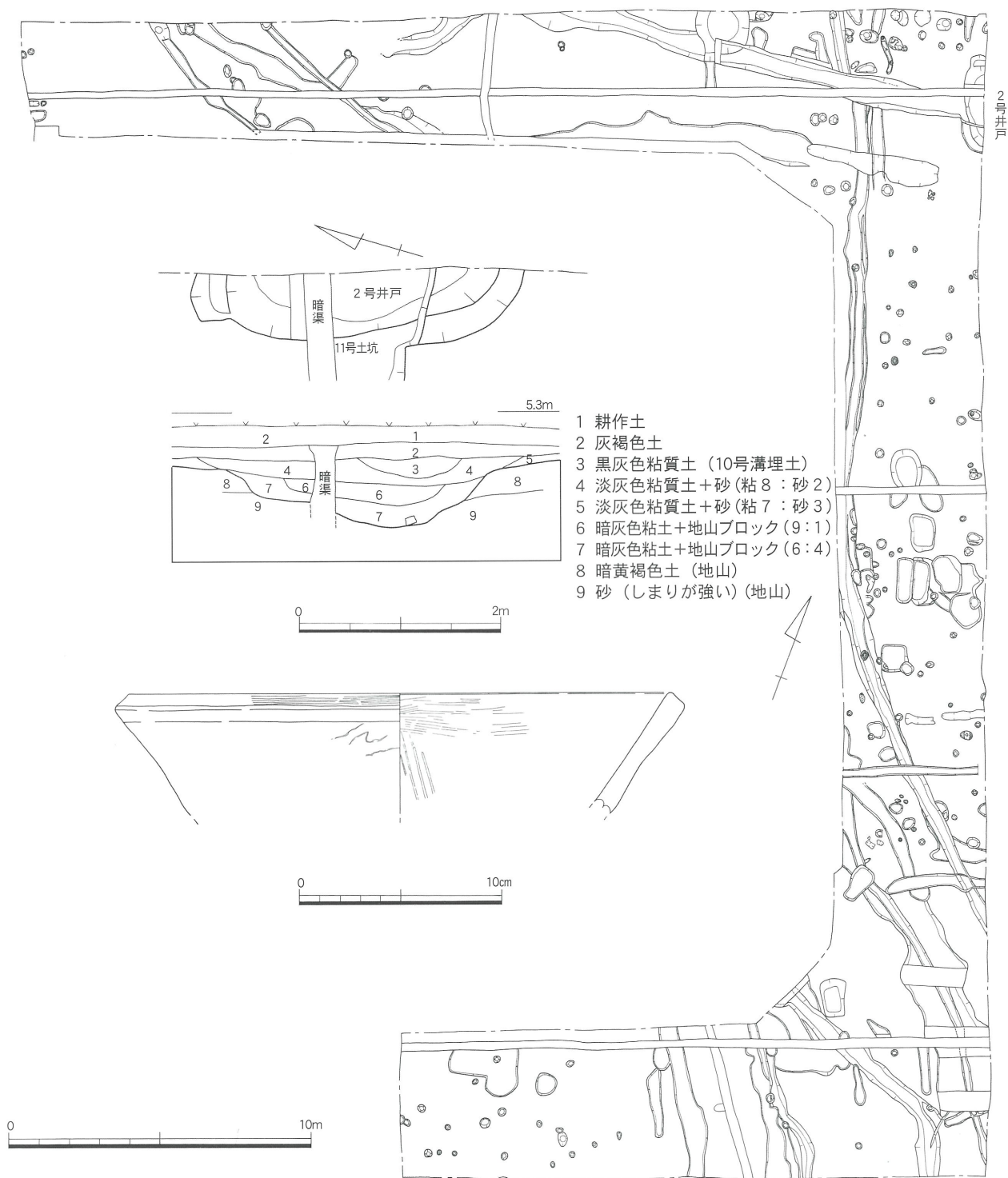
確認されている。井戸上半部の土層図がないため、詳細不明であるが、井戸枠の上位部分は抜き取られた可能性もあるだろう（第2図11）。井戸からは須恵器、土師器の他、木簡、稲藁、桃核が出土している。9世紀初頭頃の埋没か。

古墳時代の井戸が確認された志登遺跡群5次調査では8世紀代の井戸が2基確認されている。出土遺物が多い3号井戸をみると、標高5.3mで確認され、長軸1.37m、短軸0.7mの平面長楕円形を呈する。断面は段掘で北側が深くなる（岡部編1985）。井戸内からは須恵器と土師器が出土しており、8世紀中頃に位置付けられる（第2図13）。なお、2号井戸も素掘の井戸であるが、墨書須恵器が出土している。

平安時代になると、志登遺跡4次調査、潤地頭給遺跡Ⅲ-E区、篠原東遺跡J地区などで井戸が確認されるが、いずれも素掘の井戸である（川村他編1985、江野編2006、2018）。一方、旧二丈町にあたる糸島西部では井戸枠を備えるものが多い。曲り田遺跡3次調査で確認された4基の井戸はいずれも方形縦板組の井戸枠をもつ（古川編2001）。なかでも、3号井戸は平面2.5m×2.6mの正円形で、深さは3.1mを測る（第2図15）。断面は二段掘で、テラスは作業スペースと判断されている。井戸枠は遺存状況が悪いが、一辺に4枚の縦板を用いて方形に組み、最下段に自然木の横棧が確認される。井戸枠の下には集水施設として曲物を据えている。井戸からは9世紀の土師器が出土している。

才良木遺跡1号井戸は上部に石組、下部に平面六角形の縦板組、集水施設として曲物を用いる（村上編2001）。井戸は砂地に構築されており、縦板は上から打込まれたと判断されている（第2図16）。その後、石組のための掘方を設け、結果的に二段掘になっている。曲物の底面には砂利が敷き詰められており、水の浄化を意図している。遺物は砂利層から熙寧元寶（初鑄1068年）と祥符元寶（初鑄1008年）が出土していることや、周辺の遺構が平安時代後期のものが多いことから、11世紀後半代に位置付けられるか。

この傾向は12世紀代も継続しており、木舟の森遺跡1号井戸（石組+縦板組）、深江辻遺跡（石組）（第2図17）などが認められる（村上編1995、古川編2008）。なお、深江辻遺跡は才



第1図 浦志井尻遺跡2次調査全体図、2号井戸・出土遺物実測図（1/200・1/60・1/3）

良木遺跡と同様に砂地の遺構面であり、平安時代では両者でのみ石組の井戸が確認されることは興味深い。

なお、糸島東部に所在する飯氏遺跡1号井戸は

残りが悪いが直径1.5mの掘方を持ち、井戸枠として一辺に7枚の縦板を配して方形に組みあげる（松村編1993）。その下に二段の曲物を据え付ける。井戸からは土師器や四耳壺が出土しており、

12世紀後半台に位置付けられる（第2図10）。

（4）鎌倉・室町時代

中世になると井戸の確認事例が一層増加し、全体の38%がこの段階に設けられる。また、ひとつの遺跡で多数確認されることも特徴の一つである。

中世前半代に位置付けられる鎌倉時代の井戸は志登・潤などの標高4m程度の地点に集中して認められるが、いずれも素掘の井戸である。志登遺跡群では前代から引き続き井戸が確認される。4次調査5号井戸は直径2.2mの不整円形を呈し、断面は明瞭な二段掘である。井戸枠等は出ていないため、素掘の井戸と報告されているが、本来は井戸枠があり、取り外された可能性もある。井戸からは土師器皿、杯、瓦器、白磁、石鍋等が出土し、13世紀前半頃に位置付けられる。4号井戸は平面円形で断面播鉢状の井戸で、検出面から1.05m下が底となるが、湧水は認められない。出土遺物は青磁や土師器皿で埋没時期は13世紀後半台か（川村他編1985）。

同様の形態のものは、篠原東遺跡E地区1・7号井戸（第2図20）や浦志井尻遺跡2次調査でも確認されている。前者は前原東土地区画整理事業に伴う調査で、7号井戸は標高13.3m地点で確認された。平面はいびつな楕円形を呈し、深さは0.47mで、二段の掘り込みをもつが、断面播鉢状を呈する（江野編2017）。井戸からは青磁・石鍋のほかに人骨と馬骨が出土している。馬骨は頭骨、四肢骨を伴うが、出土状況からウマは解体されており、左右前肢の取り外し、内臓のとり出し等が認められる。なお、人骨と馬骨は井戸埋没後に土坑を設けて廃棄されたとされる。時期は12世紀後半から13世紀前半に位置付けられる。後者の浦志井尻遺跡2次調査は平成29年度に調査を実施したもので、湧水を伴う平面円形、断面播鉢状の土坑を複数確認した。調査時は土坑と判断したが、類例との比較から、これらも井戸の一形態と判断してよいだろう。なお、検出面は5m程度である。時期は土師質の播鉢が出ていることから、16世紀代に位置付けられるか（第1図）。したがって、断面播鉢状の井戸は長期間にわたって構築されていることが確認できる。

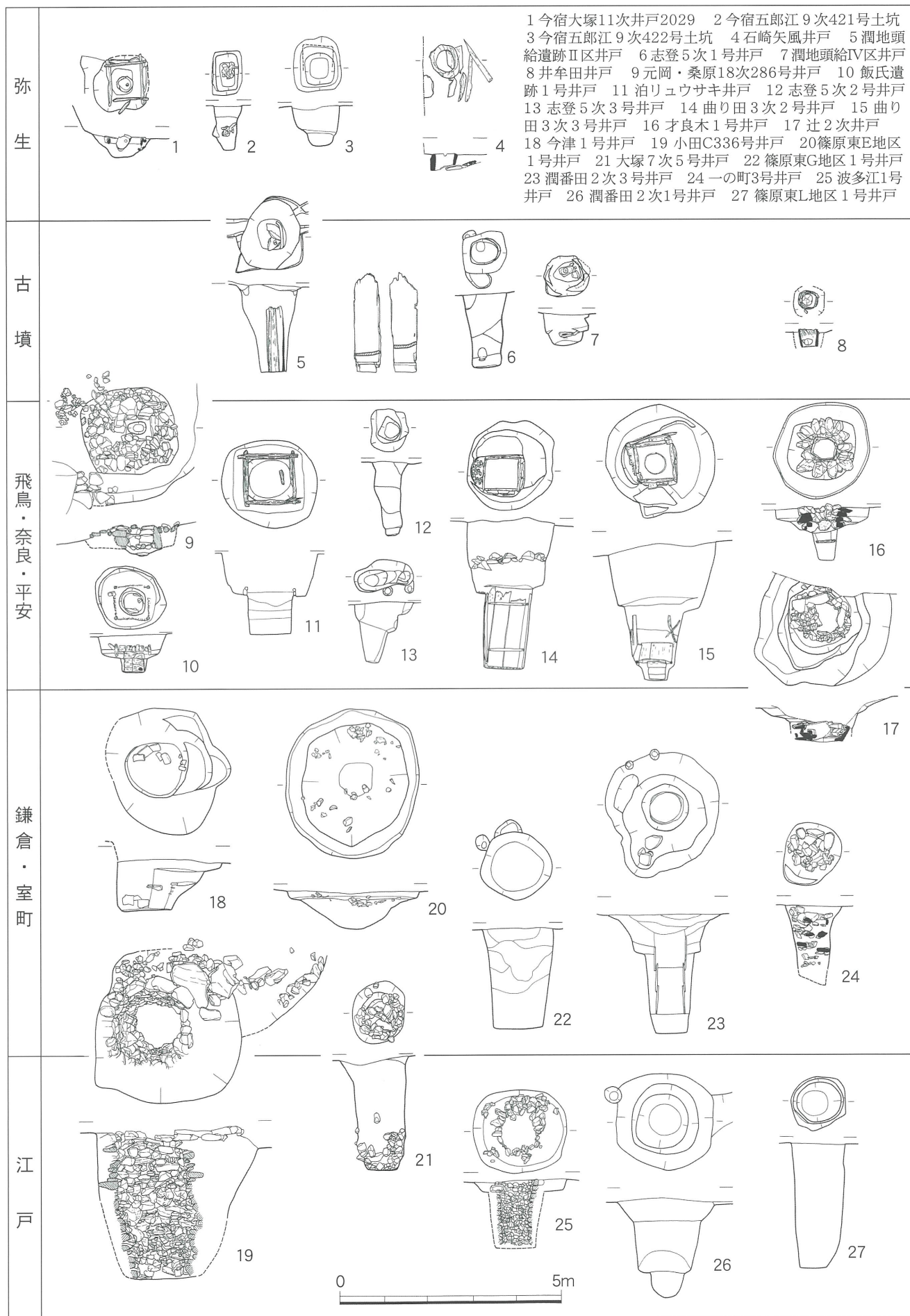
潤古屋敷遺跡1・2次調査は、県道の拡幅を契

機として行われたもので、調査区は両者合わせて幅5～10m、長さ100m程度の長細いものであった。ここから13～14世紀頃の井戸が6基確認された（平尾編2012、瓜生編2013）。いずれも標高4m程度の地点で検出された素掘の井戸で、平面円形、断面が円筒状のものと、二段掘のものが確認されている。なお、潤古屋敷遺跡の南に接する潤地頭給遺跡Ⅲ-W区や潤番田遺跡1次調査では室町時代の井戸が確認され、南西に位置する潤番田遺跡2次調査では江戸時代の井戸がまとまって確認されており、居住域が北から南へ変遷する様子が井戸から復元できる。

中世後期にあたる室町時代も、前代から継続して標高4m程度の潤・志登地区に井戸が築かれる。

潤地頭給遺跡は東風小学校建設に伴い発掘調査を実施した遺跡で、その南西隅がⅢ-W区で、素掘の井戸が8基確認されている（江野編2006）。いずれも標高4m付近の検出である。井戸からの出土遺物から、1号井戸は14～15世紀、3・4・6号井戸は15～16世紀、7・8号井戸は16世紀とされる。2・5号井戸からは図化できる遺物は出土していないが、おおよ他の井戸と同時期と捉えられよう。なお、南北に走る谷を挟んだ東側であるⅢ-E区では平安時代の井戸が確認されている。

潤番田遺跡1次調査では標高4m付近で7基の井戸が確認された（平尾編2012）。いずれも素掘の井戸で、瓦質土器や土師器などが出土していることから、16世紀後半頃に埋没したものと判断される。ただ、象嵌青磁が多く確認され、中には筒茶碗や方枕などの希少なものも含まれる。このように志登や潤地区など標高4m付近の糸島低地帯では通史的に素掘の井戸が確認されるが、唯一の例外が結桶（筒）を4段重ねて井戸枠とした潤番田遺跡2次調査3号井戸である（第2図23）。鈴木康之氏によると日本における結桶の展開は出現期（11世紀後半～12世紀）、拡散期（13～14世紀）、普及期（15～16世紀）の三段階に分けることができる（鈴木2002）。結桶はそもそも博多を拠点としていた宋商人がもたらしたものと考えられており、13世紀以前は博多・箱崎・太宰府などで限定的に展開し、13世紀以降瀬戸内以東へも拡散し、15・16世紀になると事例が増加するとされる。結桶そのものの製作技術も変化が



第2図 糸島地域井戸編年表 (1/120)

見られ、14世紀代の結物側板にはヤリガンナによる加工痕、15世紀以降のものには台鉋状工具の痕跡を残す。潤番田遺跡2次3号井戸の結桶（筒）側面は直線的で台鉋状工具痕を残すことから15世紀代以降に築かれ、井戸から出土した瓦質土器や象嵌青磁、土師皿などから16世紀後半に埋没したと判断される（平尾編2020）。なお、当該期における木材を井戸枠とする井戸は、潤番田例を除くと二丈中学校遺跡で確認された井戸のみである。本例は削平が著しく詳細は不明であるが、残された木材の配置から縦板組の井戸枠の可能性はある。時期は周辺の状況から15世紀が想定されている（古川編2003）。

また、やや標高が高い地点に設けられた井戸には瓦組や石組がみられるようになる。一の町遺跡1号・3号井戸は標高13mの地点に設けられたもので、井戸内から石が多数出土している（河合編2009）。いずれも側縁上部に石組の痕跡が残っており、井戸上位のみの石組であろうか。報告書ではいずれも素掘の井戸若しくは溜井の可能性を想定している（第2図24）。

福岡市西区大塚遺跡17次調査の標高9.3mの地点で確認された49号井戸は2度の造り替えが想定される石組の井戸で、人頭大の花崗岩礫を用いられているが、石組は強固ではなく多くの石材が抜け落ちた状態で確認されている。井戸からは瓦質土器や中国陶磁器が出土しており、16世紀前半～後半に位置付けられる（森本編2012）。大塚遺跡では石組井戸が7次調査5号井戸でも確認されている（第2図21）（加藤編1991）。また、小田C遺跡の336号井戸は標高7.8m地点に築かれた石組の井戸で、平面プランは3.3m×3.0mの正円に近い平面プランをもつ。石材は花崗岩や砂岩など雑多なものが用いられている。なお、井戸に接して石組溝が設けられており、排水路などの井戸関連施設と考えられる（池田編2000）。そのほか、出土遺物の記載はないが、元岡・桑原遺跡18次421号井戸は中世の井戸と報告されている（吉留編2010）。

また、当地域では珍しいものとして、瓦組井戸の可能性のある今津遺跡1号井戸がある（第2図18）。本例は標高16mの地点で検出されたもので、長軸2.8mの平面楕円形を呈する掘方をもつ。井戸は三段掘で最下段に平瓦が井戸枠に沿う形で三

枚配されていた。瓦組の井戸であるならばもう少し多くの瓦が出土しても良いと考えられるため、ここでは可能性の指摘にとどめておく。なお、確認された地点は誓願寺の近隣であることから、その関連性も視野に入れる必要がある。瓦そのものは13～14世紀のものと報告されている（二宮編1987）。

（5）江戸時代

江戸時代になると波多江遺跡や篠原東遺跡、潤番田遺跡2次調査などで18基の井戸が確認される。

波多江遺跡は戦国期から続く屋敷地の一角で複数の井戸が確認された（橋口編1982）。1号井戸は集落区画溝の近くで確認された石組の井戸で、検出面は標高12.8mである。検出面は直径約2.0mで、井筒は直径0.7mを測る。石組は小形の礫を小口積みしたもので、内部から唐津系陶器、染付などが出土している（第2図25）。

新しいものとして篠原東遺跡L地区1号井戸がある。1号井戸は標高12.9m地点で確認された素掘の井戸で、検出面から60cm以下で礫、土砂や陶磁器が投げ込まれた状態が確認されている（第2図27）。遺物は各種陶磁器類や石臼が確認されており、19世紀後半と報告される（江野編2017）。

また、潤番田遺跡2次調査では標高4m前後の箇所から16基の井戸が確認されているが、16世紀代に位置付けられる3号井戸など3基を除き、すべて17～18世紀の井戸である（第2図26）。いずれも素掘の井戸で、これまで潤地区で確認されている井戸の形状と似たものである。

4. 糸島地域における井戸の画期

以上、糸島地域における井戸の変遷を概観したが、その変遷を図化したものが第2図である。総数123基の時期的内訳をみると、弥生6基、古墳5基、古代29基（飛鳥4基、奈良5基、平安20基）、中世47基（鎌倉12基、室町35基）、江戸18基、不明18基となる。弥生、古墳時代の井戸が少ないのに対し、中世、とくに室町時代の井戸が多く、全体の1/4強を占めることが分かる。なお、江戸時代の井戸は18基であるが、現代の集落が江戸時代から継続しているものが多いことを考

No.	遺跡名	遺構名	所在地	時期区分	年代	井戸枠(上→下)	検出面	出土遺物	備考
1	志登遺跡5次	1号井戸	糸島市志登	古墳	古墳前	素掘	5.5m	土師器	
2	志登遺跡5次	2号井戸	糸島市志登	奈良	8c	素掘	5.5m	土師器、須恵器	
3	志登遺跡5次	3号井戸	糸島市志登	奈良	8c中頃	素掘	5.3m	土師器、須恵器	
4	志登遺跡4次	1号井戸	糸島市志登	室町	15・16cか	素掘	4.5m	瓦器、土師器、青磁、陶器、土鍋、石鍋	遺物は小片のため図面なし
5	志登遺跡4次	2号井戸	糸島市志登	平安	12c後	素掘	4.3m	土師器、瓦器、青磁、白磁、瓦質土器	
6	志登遺跡4次	3号井戸	糸島市志登	平安	10c後	素掘	4.3m	土師器、瓦器、青磁、白磁	
7	志登遺跡4次	4号井戸	糸島市志登	鎌倉	13c後	素掘	4.3m	青磁、土師器	断面描鉢状
8	志登遺跡4次	5号井戸	糸島市志登	鎌倉	13c前	素掘	4.2m	土師器、瓦器、白磁	
9	志登遺跡4次	6号井戸	糸島市志登	不明	不明	素掘	4.2m	—	
10	井原松井西B地点	井戸	糸島市井原	平安	12cか	素掘	—	土師器、黒色土器、瓦器	文章のみ
11	多久元多久遺跡	井戸	糸島市多久	不明	不明	素掘	10.0m	不明	平面プランのみ
12	潤地頭給遺跡Ⅱ区	井戸	糸島市潤	古墳	古墳前	縦板組	3.5m	土師器	井戸枠は準構造船材転用
13	潤地頭給遺跡Ⅲ-E区	1号井戸	糸島市潤	平安	10c	素掘	4.6m	土師器	断面描鉢状
14	潤地頭給遺跡Ⅲ-E区	2号井戸	糸島市潤	平安	10cか	素掘	4.5m	土師器、黒色土器	断面描鉢状
15	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	1号井戸	糸島市潤	室町	14～15c	素掘	4.1m	土師器	
16	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	2号井戸	糸島市潤	不明	不明	素掘	3.8m	—	
17	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	3号井戸	糸島市潤	室町	15～16c	素掘	4.2m	土師器、陶器	
18	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	4号井戸	糸島市潤	室町	15～16c	素掘	4.1m	瓦質土器、石鍋	
19	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	5号井戸	糸島市潤	不明	不明	素掘	4.5m	—	
20	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	6号井戸	糸島市潤	室町	15～16c	素掘	4.0m	石鍋	
21	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	7号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.1m	瓦質土器、土師器	
22	潤地頭給遺跡Ⅲ-W区	8号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.6m	土師器	
23	潤地頭給遺跡Ⅳ区	井戸	糸島市潤	古墳	5c前半	素掘	4.6m	土師器	
24	泊リュウサキ遺跡	井戸	糸島市泊	奈良	8c中頃	横板組+素掘	8.0m	土師器、須恵器、木簡	
25	井牟田遺跡	井戸	糸島市二丈深江	古墳	古墳初	丸太刳抜+土器	3.2m	土師器	
26	木舟の森遺跡	1号井戸	糸島市二丈深江	平安	12c後	石組+縦板組	2.0m	土師器、白磁、青磁、陶器	
27	才良木遺跡	1号井戸	糸島市二丈深江	平安	11c	石組+縦板組+曲物	2.0m	北宋銭(11c初頃)	他の遺構が平安
28	曲り田遺跡3次	1号井戸	糸島市二丈石崎	平安	9c	方形縦板組	8.1m	土師器	
29	曲り田遺跡3次	2号井戸	糸島市二丈石崎	平安	9c	方形縦板組	8.3m	土師器	10～13cに廃棄
30	曲り田遺跡3次	3号井戸	糸島市二丈石崎	平安	9c	方形縦板組+曲物	7.5m	土師器	
31	曲り田遺跡3次	4号井戸	糸島市二丈石崎	平安	9c	方形縦板組	5.5m	土師器	
32	二丈中学校内遺跡	井戸	糸島市二丈深江	室町	15c	縦板組か	2.8m	—	削平大きい
33	深江辻遺跡2次	石組井戸	糸島市二丈深江	平安	12c	石組	2.8m	土師器、瓦、北宋銭	遺構面は砂地
34	一の町遺跡	1号井戸	糸島市志摩稲留	室町か	—	石組	13.0m	中世の遺物	
35	一の町遺跡	3号井戸	糸島市志摩稲留	室町か	—	石組	13.0m	—	
36	波多江遺跡	1号井戸	糸島市波多江	江戸	17c	石組	12.8m	染付、唐津	
37	波多江遺跡	2号井戸	糸島市波多江	江戸か	—	素掘	13.0m	—	
38	波多江遺跡	3号井戸	糸島市波多江	江戸	—	石組	13.0m	—	
39	波多江遺跡	4号井戸	糸島市波多江	江戸か	—	素掘	—	—	
40	石崎矢風遺跡	井戸	糸島市石崎	弥生	弥生中前	丸太刳抜	8.4m	弥生土器	
41	潤番田遺跡1次	1号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.5m	土鍋、高麗青磁、明染付、土師器、瓦質土器	
42	潤番田遺跡1次	2号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.5m	瓦質土器、土師器	
43	潤番田遺跡1次	3号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.7m	瓦質土器、高麗青磁、土師器	
44	潤番田遺跡1次	4号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.7m	瓦質土器、土師器	
45	潤番田遺跡1次	5号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.7m	土師器、雑釉陶器	
46	潤番田遺跡1次	6号井戸	糸島市潤	室町	16c後	素掘	4.3m	瓦質土器、土鍋、土師器	
47	潤番田遺跡1次	7号井戸	糸島市潤	室町	16c	素掘	4.5m	高麗青磁、土師器、瓦質土器	
48	潤古屋敷遺跡1次	1号井戸	糸島市潤	鎌倉	14c	素掘	4.6m	土師器、陶磁器	
49	潤古屋敷遺跡1次	2号井戸	糸島市潤	鎌倉	13～14c	素掘	4.3m	土師器、陶磁器	
50	潤古屋敷遺跡1次	3号井戸	糸島市潤	鎌倉	13～14c	素掘	4.5m	土師器、陶磁器	
51	潤古屋敷遺跡1次	4号井戸	糸島市潤	鎌倉	13～14c	素掘	4.7m	土師器、陶磁器	
52	潤古屋敷遺跡2次	1号井戸	糸島市潤	鎌倉	13c中～14c	素掘	4.1m	土師器、陶磁器	
53	潤古屋敷遺跡2次	2号井戸	糸島市潤	鎌倉	13c中～14c	素掘	4.1m	土師器、陶磁器	
54	潤古屋敷遺跡2次	3号井戸	糸島市潤	弥生?	弥生中?	素掘	—	弥生土器	約1/6の掘り下げ
55	篠原東遺跡E地区	1号井戸	糸島市篠原・浦志	鎌倉	12c後～13c前	素掘	13.3m	白磁、青磁、土師器、須恵器、石鍋	
56	篠原東遺跡E地区	2号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.2m	無	
57	篠原東遺跡E地区	3号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.6m	無	
58	篠原東遺跡E地区	4号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.6m	無	井戸の可能性
59	篠原東遺跡E地区	5号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.3m	無	断面描鉢状
60	篠原東遺跡E地区	6号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.2m	無	
61	篠原東遺跡E地区	7号井戸	糸島市篠原・浦志	鎌倉	12c中～13c	素掘	13.3m	青磁、石鍋、馬骨、人骨	断面描鉢状
62	篠原東遺跡E地区	8号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.0m	無	
63	篠原東遺跡E地区	9号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	11.9m	無	断面描鉢状
64	篠原東遺跡E地区	10号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.0m	瓦	怡土城瓦
65	篠原東遺跡E地区	11号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	13.0m	—	
66	篠原東遺跡E地区	12号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	13.0m	—	
67	篠原東遺跡E地区	13号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.8m	黒色土器、土師器	断面描鉢状
68	篠原東遺跡E地区	14号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	12.8m	弥生土器	
69	篠原東遺跡G地区	1号井戸	糸島市篠原・浦志	室町	16c	素掘	12.8m	瓦質土器、陶器、土師器	
70	篠原東遺跡I地区	1号井戸	糸島市篠原・浦志	江戸	19c後	素掘	12.9m	陶磁器、石臼	
71	篠原東遺跡C地区	1号井戸	糸島市篠原・浦志	室町	16c	素掘	6.4m	土師器、瓦質土器	断面描鉢状
72	篠原東遺跡I地区	1号井戸	糸島市篠原・浦志	室町	16c後	素掘	6.9m	瓦質土器	
73	篠原東遺跡O地区	1号井戸	糸島市篠原・浦志	室町	16c	素掘	4.3m	瓦質土器	
74	篠原東遺跡J地区	1号井戸	糸島市篠原・浦志	平安	10c	素掘	11.4m	土師器	
75	篠原東遺跡J地区	2号井戸	糸島市篠原・浦志	平安	9cか	素掘	11.6m	土師器	

表1 糸島地域井戸一覧表①

No.	遺跡名	遺構名	所在地	時期区分	年代	井戸枠(上→下)	検出面	出土遺物	備考
76	篠原東遺跡1地区	3号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	11.6m	—	
77	篠原東遺跡1地区	4号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	10.9m	—	
78	篠原東遺跡1地区	5号井戸	糸島市篠原・浦志	不明	不明	素掘	11.6m	黒色土器	
79	志登尾北遺跡	1号井戸	糸島市志登	平安	12c	素掘	4.1m	須恵器、瓦器	室町期の大溝に切られる
80	志登尾北遺跡	2号井戸	糸島市志登	平安	11cか	素掘	5.0m	土師器	
81	志登尾北遺跡	3号井戸	糸島市志登	鎌倉	—	素掘	4.0m	須恵質土器	室町期の大溝に切られる
82	潤番田遺跡2次	1号井戸	糸島市潤	江戸	17c中～	素掘	4.9m	陶器、瓦質土器、土師器	
83	潤番田遺跡2次	2号井戸	糸島市潤	江戸	17c後半	素掘	4.8m	陶器、瓦質土器、土鍋	
84	潤番田遺跡2次	3号井戸	糸島市潤	室町	16c後半	結筒積	4.9m	高麗青磁、青磁、白磁、土師器	
85	潤番田遺跡2次	4号井戸	糸島市潤	江戸	17cか	素掘	4.8m	土鍋	土坑の可能性
86	潤番田遺跡2次	5号井戸	糸島市潤	江戸	16c末～17c	素掘	4.9m	足鍋	
87	潤番田遺跡2次	6号井戸	糸島市潤	江戸	17cか	素掘	4.9m	陶器、高麗青磁、土師器	
88	潤番田遺跡2次	7号井戸	糸島市潤	室町か	16cか	素掘	4.9m	白磁、土師器	
89	潤番田遺跡2次	8号井戸	糸島市潤	江戸	17c中～後	素掘	4.9m	陶器、磁器	
90	潤番田遺跡2次	9号井戸	糸島市潤	江戸か	—	素掘	4.9m	茶臼	土坑の可能性
91	潤番田遺跡2次	10号井戸	糸島市潤	江戸	17c中	素掘	4.9m	陶器、瓦質土器	
92	潤番田遺跡2次	11号井戸	糸島市潤	江戸	17～18c	素掘	4.9m	陶器、磁器	
93	潤番田遺跡2次	12号井戸	糸島市潤	室町か	14・15c	素掘	4.9m	青磁、瓦質土器	
94	潤番田遺跡2次	13号井戸	糸島市潤	江戸	17c	素掘	4.8m	陶器、磁器	土坑の可能性
95	潤番田遺跡2次	14号井戸	糸島市潤	江戸	17c	素掘	4.9m	陶器、磁器、土師器	
96	潤番田遺跡2次	15号井戸	糸島市潤	江戸	16c末～17cか	素掘	4.7m	足鍋、土鍋	溜井か
97	潤番田遺跡2次	16号井戸	糸島市潤	江戸か	—	素掘	4.8m	—	
98	潤中町遺跡2次	井戸	糸島市潤	鎌倉	13c	素掘	—	土師皿、瓦器	三段掘り
99	今津遺跡	1号井戸	福岡市西区	室町	13～14c	瓦組か	16.0m	瓦、瓦質、土師器、白磁	誓願寺関係か
100	今津遺跡	2号井戸	福岡市西区	室町	—	素掘	15.7m	—	断面播鉢状
101	今津遺跡	3号井戸	福岡市西区	室町	13～15c	素掘	11.3m	—	
102	今宿五郎江遺跡2次	1号井戸	福岡市西区	弥生	中末～後初	素掘	5.0m	弥生土器	
103	大塚遺跡7次	5号井戸	福岡市西区	室町	15c	石組	9.3m	土鍋、青磁、木器	
104	飯氏遺跡群	1号井戸	福岡市西区	平安	12c後	方形縦板+曲物	12.8m	土師器、白磁	
105	小田C遺跡	336号土坑	福岡市西区	室町	16c	石組	7.8m	染付、瓦質土器、土師器	付属施設有
106	元岡・桑原遺跡2次	1号土坑	福岡市西区	平安	—	素掘	15.4m	—	土層から
107	今宿五郎江遺跡9次	421号井戸	福岡市西区	弥生	中末～後初	素掘	8.3m	弥生土器	
108	今宿五郎江遺跡9次	422号井戸	福岡市西区	弥生	中期末	素掘	約8.0m	—	
109	元岡・桑原遺跡22次	1号井戸	福岡市西区	古墳	6cか	素掘	11.3m	土師器(甗)	文章のみ
110	元岡・桑原遺跡22次	2号井戸	福岡市西区	奈良	8c前半	素掘	11.6m	—	井戸の可能性
111	元岡・桑原遺跡26次	11号土坑	福岡市西区	室町	—	不明	12.0m	—	平面プランのみ
112	元岡・桑原遺跡26次	20号土坑	福岡市西区	室町	13～14c	不明	12.0m	土師器	平面プランのみ
113	大塚遺跡13次	9号井戸	福岡市西区	室町	16cか	素掘	6.3m	—	
114	大塚遺跡13次	10号井戸	福岡市西区	室町	16cか	素掘	6.3m	—	
115	元岡・桑原遺跡18次	286号井戸	福岡市西区	飛鳥	7cか	石組	21.0m	未記載	
116	元岡・桑原遺跡18次	287号井戸	福岡市西区	飛鳥	7cか	石組	21.5m	須恵器	
117	元岡・桑原遺跡18次	421号井戸	福岡市西区	室町か	室町か	石組	約16.0m	未記載	
118	元岡・桑原遺跡18次	422号井戸	福岡市西区	飛鳥	7cか	石組	15.5m	土師器	
119	元岡・桑原遺跡18次	429号井戸	福岡市西区	奈良	奈良か	素掘	15.4m	未記載	422号井戸より後出
120	元岡・桑原遺跡18次	453号井戸	福岡市西区	飛鳥	7cか	石組	14.3m	未記載	
121	大塚遺跡17次	49号井戸	福岡市西区	室町	16c前～後	石組	8.0m	陶磁器、瓦質、土師器	
122	今宿大塚遺跡11次	井戸2029	福岡市西区	弥生	弥生後	横板組	4.0m	弥生土器	
123	元岡・桑原遺跡53次	5号井戸	福岡市西区	平安	9～10c	縦板組	3.9m	黒色土器、土師器、須恵器、怡土城瓦	断面播鉢状

表2 糸島地域井戸一覧表②

えると、井戸は現集落のなかに残されている可能性が高く、数量的比較は一定の目安に過ぎない。

また、大まかな傾向として、潤・志登地区などの糸島低地帯では素掘の井戸が多く、やや標高が高い地点に築かれた井戸に井戸枠が設けられるようである。これは井戸が築かれる地盤の問題もある。なお、7世紀の元岡・桑原遺跡で突然、石組井戸が築かれるが、後の時代に継続することなく点的に終わることも注目される。これは既に指摘されているようにヤマト政権による影響と考えられ、時期的な特定は難しいものの、征新羅大將軍久米皇子の駐屯など歴史的事象と関連付けられる可能性が大きい。

このように概観される糸島地域の井戸について、

現段階では3つの画期が設定できる。

第1の画期(弥生時代中期)糸島地域における井戸の始まり

現段階では石崎矢風遺跡の丸太刳抜井戸が弥生時代中期前半で糸島地域最古に位置付けられる。その後、東の今宿五郎江遺跡、今宿大塚遺跡で継続的にみられる。特に今宿大塚遺跡11次調査井戸2029は横板組の井戸枠をもち、すでにある程度完成された形態を示す。将来的には初源的な井戸が確認され、他地域と同様に弥生時代前期にまでさかのぼる可能性がある。また、旧二丈町域で刳抜井戸がみられることも特徴である。なお、拠点集落である三雲・井原遺跡では井戸が確認されないが、遺跡の東西を北流する瑞梅寺川・川原川より飲料水等を得ていたものと思われる。